

# 植樹式 2000



時の蘇生・柿の木プロジェクト

2月5日		三條市立月岡小学校 日本・新潟県・三條市	1
2月14日		神戸市立盲学校 日本・兵庫県・神戸市	2
2月14日		恵向公園 日本・福島県・本宮市	3
3月17日		マッツオルボ島スカルパボーロ イタリア・ヴェネツィア県・ブラーノ市	4
3月18日		F.P. コルデノン中学校 イタリア・ヴェネツィア県・サンタマリアディサーラ市	5
3月18日		旧サン・ジョヴァンニ教会 イタリア・ヴァレーゼ県・カシャーゴ市	6
3月21日		サンタジュリア博物館 イタリア・ブレシア県・ブレシア市	7
3月23日		スロベニア赤十字青少年健康リゾート スロベニア・アンカラン	8
3月23日		アントン・ウクマール小学校 スロベニア・コベル	9
3月25日		サグラの庭（裁判所中庭） イタリア・モデナ県・カルビ市	10
3月25日		コートハウス・アート・センター アイルランド・ティナヒリー	11
3月26日		レヴァンテ公園 イタリア・フォルリ=チェゼーナ県・チェゼーナティコ市	12
3月28日		トレ비아ーノ・ロマーノ中学校 イタリア・ローマ県・トレ비아ーノ・ロマーノ市	13
3月28日		フランクリン公園温室植物園 アメリカ・コロンバス	14
3月31日		G. マツイーニ小学校 イタリア・テルニ県・テルニ市	15
4月1日		青少年センター イタリア・シエーナ県・ポッジボーンシシ市	16
4月1日		サンドナートミラネーゼ市役所 イタリア・ミラノ県・サンドナートミラネーゼ市	17
4月1日		G. ウンガレッティ国立中学校 イタリア・ボルデノーネ県・ボルデノーネ市	18

4月2日		ラーマ・モナキーレ橋遊歩道 イタリア・パリー県・ポリニャーノマーレ市	19
4月4日		仲外公園（光州ビエンナーレ会場） 韓国・光州広域市	20
4月7日		ナポレオン市立公園 イタリア・ヴェネツィア県・カステッロ市	21
6月6日		ライデン大学付属植物園 オランダ・ライデン	22
10月25日		ホッカデイ・スクール アメリカ・ダラス	23
3月5日		大垣公園 日本・岐阜県・大垣市	
3月6日		大垣市立小野小学校 日本・岐阜県・大垣市	
		大垣市立東中学校 日本・岐阜県・大垣市	

# 三条市立月岡小学校

🇯🇵 日本  
📍 新潟県・三条市  
🌱 2000年2月5日



新潟県内初の植樹。現代美術家でもある堀川紀夫校長が新潟県三条市の「非核平和都市宣言」を受け、平和学習の機会として申し込まれました。植樹は6年生を中心に行われ

ました。植樹当日は雪が積もる新潟で比較的穏やかな天気恵まれました。長崎からは海老沼順子さんが駆けつけ、子どもたちと質疑応答をかわし、交流を深めました。アートイベントでは「記念樹」を合唱。寒さの中でも、子どもたちは元気に柿の木を植えました。後日、実行委員のもとに、戦争や平和への思いや、柿の木の様子が書かれた子どもたちの手紙が届きました。植樹から4年たった2004年7月13日、新潟を襲った集中豪雨により、近くを流れる五十嵐川の堤防が決壊し、月岡小学校は大きな被害を受けました。一時は校舎は水に取り囲まれて孤立し、この水害で子どもたちの80%が被災しましたが、全員無事であったこと、そして柿の木も被害を受けずに元気にすくすく育っているとの

報告を校長先生よりいただきました。

2010年10月27日、小学校の創立記念日に植樹10周年祭が開催されました。当時の校長先生であったアーティストの堀川紀夫先生、長崎の海老沼先生、宮島達男も参加し、堀川紀夫先生によるワークショップ「折鶴作り」を行いました。その後6年生と交流活動を行い、最後に大きく成長した2本の柿の木のまわりに、6年生が作った灯籠を並べて歌を歌いました。灯籠は夜まで点灯され、幻想的な雰囲気となりました。



# 神戸市立盲学校

日本

兵庫県・神戸市

2000年2月14日



2003年運動会



5周年

神戸市立盲学校は、幼稚部から専攻科まで年齢層が幅広い学校です。柿の木プロジェクトに興味を持った増田桃子先生から申し込がありました。植樹式は、高等部が行う「卒業生を送る会」のメインイベントとして、行われました。参加者は教室に集まり、植樹イベントはスタートしました。実行委員メンバー紹介の後、海老沼順子さんから柿の木についての説明、海老沼先生のメッセージが読み上げられました。その後全員で校庭に移動し、植樹の前に柿の木をさわって確認しました。各クラス1名の代表が、大きなシャベルで苗木に土をかけていきました。最後に柿の木の前で、参加者全員で素晴らしい歌を歌ってくれました。御礼として海老沼順子さんから本の贈呈がありました。最後に両手のひらを柿の木へむけ、「柿の木が丈夫に育つように！」とみんなで「気」をおくりました。植樹後には、体育館でボールを転がして行うフロアーバレー大会が開催されました。在校生対卒業生の試合は、白熱したものとなりました。柿の木は高等部生徒会の木として大切にされています。

植樹からちょうど5年たった2005年2月14日には、2000年の植樹式に参加してくれた生徒たちを招待し、「柿の木同窓会」が開催されました。「柿の木同窓会」では、パーカッション奏者 大石智紀さんによる太鼓をつかったワークショップが行われました。大石さんのドラムにあわせて、参加者たちは太鼓を打ち鳴らし、迫力の演奏会となりました。

# 恵向公園

🇯🇵 日本

📍 福島県・本宮市

🌱 2000年2月14日



木は学校近くの恵向公園に植樹され、全校生徒により手入れや成長の観察・記録が行われています。

福島県西部に位置する安達郡本宮町（現在は本宮市）。1999年に展覧会を行ったベルリッツ渋谷ランゲージセンターの関係者から柿の木プロジェクトのことを聞いた本宮町教育委員長、高田宗彦氏からの申し込により、この春に完成したばかりの恵向公園に植樹が実現しました。本宮町の人々は、この公園にたくさんの植樹を行い森にしようという思いがあり、町をあげて植樹活動を推進してきました。この公園の中心に柿の木を植樹し、平和の大切さを子どもたちに伝えていきたいと思っています。本宮町立本宮第二中学校の体育館で式典が行われ、会場にはこの日のために制作された巨大な柿の木のはり絵が展示されました。式典は生徒会が中心となって準備、このはり絵は美術部によって制作されました。全校生徒からは「戦争」「平和」「命」をテーマにメッセージが寄せられました。柿の

2011年の東日本大震災により、この地域は大きな被害を受けました。恵向公園には、被災した多くの方のための仮設住宅が建てられ、柿の木のみわりは舗装されて、仮設住宅のための駐車場になりました。このような状況になりましたが、ここの柿の木は元気に成長し続けて、たくさんの実をみのらせています。



# マッツオルボ島スカルパポーロ

🇮🇹 イタリア

📍 ヴェネツィア県・ブラーノ市

🌱 2000年3月17日

アドリア海北部に位置するヴェネツィア島から船で約30分のマッツオルボ島の公共農園「B. Galuppi」 di Buranoに柿の木が植樹されました。植樹場ところは農場のぶどう畑の中にあり、ヴェネツィア周辺の小学校約9校から約450人の子どもたちが参加し、盛大な植樹式になりました。この小学校の参加は、ヴェネツィア・ビエンナーレを見た数人の教師が共感してくれて実現したものです。特にラウラ ビオンディ先生は中心的に働いてくれました。ジョルジオ・マスティニーニさんによる凧あげ、三嶋りつ恵さん、ラウラ先生による鳩の折り紙と色付け、マンチェスターの小学校と交流、詩を書いて柿の木に貼る、マテオ・ベルテッリさんとカルロ・メモさんによる屏風のようなつい立に絵ドローイングを描く、マテオさんとニコラさんによる壁一面の大きな絵、ファビオさんによるコンゴ



演奏など広い園内で自由にワークショップが開催されました。また、この式典にはヴェネツィア・ビエンナーレのコミッショナーを務めた塩田純一さん、国際交流基金の佐藤淳子さんも参加しました。

残念ながら、2003年6月にブラーノを訪問したときに確認したところ、柿の木はなくなっていました。役所に確認すると土地のアルカリ性が強くて枯れてしまい、抜いたとのことでした。



# F.P. コルデノン中学校

🇮🇹 イタリア

📍 ヴェネツィア県・サンタマリアディサーラ市

🌱 2000年3月18日

コルデノン中学校の子どもたちは、1999年の「ヴェネツィア・ビエンナーレ」展で行ったミケーレ・ドラセックさんのワークショップに参加してくれました。



ワークショップに参加した子どもたちはみんな柿の木のこと大好きになりました。この参加がきっかけとなり、コルデノン中学校のモンテッラ・マリーナ先生の、子どもたちに柿の木を象徴として、平和の大切さに触れさせたいという熱い思いも重なり、サンタマリアディサーラ市の申し込により、植樹が実現しました。

2本の柿の木がコルデノン中学校の中庭に植樹され、2本とも順調に育つことができれば、1本をロダーリ公園に移植する予定になりました。ロダーリ公園は子どもたちが良く遊びに行く公園

で、老人たちもたくさん訪れる公園です。植樹式には市長や市の関係者も多数参加されました。中学校の体育館で、市の吹奏楽団による演奏が行われ、参加者は取り囲むようにして演奏を聴いていました。中学校の2クラスの子どもたちにより平和への思いを願い、4畳半ほどもある大きな紙に、巨大な柿の木の絵が描かれました。植樹は中学生2名のサクソによるイマジンの演奏の中行われ、盛大な植樹式となりました。イスト・モツォーニデザイン美術専門学校の学生たちとアルベルト・ファバレット先生は自らも柿の木プロジェクトに申し込をしましたが、惜しくも選ばれませんでした。にもかかわらず、3月17日のブラーノ植樹と、サンタマリアディサーラの植樹に参加し、写真集とポスターを制作するとのことでした。





# 旧サンジョバンニ教会

🇮🇹 イタリア

📍 ヴァレーゼ県・カチャーゴ市

🌱 2000年3月18日



旧サンジョバンニ協会は緑豊かなヴァレーゼ地方に点在する湖を見下ろす高台の小さな村に立つ中世の教会跡です。マンゾーニ小学校PTA会長のアンニーヴァ・アンツイさんはヴェネツィア・ビエンナーレ日本館で「被爆柿の木2世」に出会ったのを機に小学校の遠足で子どもたちにも柿の木を見せ、村の老人に戦争のお話を聞くなどの活動を始めました。植樹式はアーティストのジョルジョ・ヴィチェンティーニさんのインスタレーション「ON-OFF」や旧協会での展覧会を大人と子どもが地元のアーティストと一緒に作りあげ、詩や朗読、造形のワークショップも開かれました。毎年春には2010年の収穫祭を目指して植樹記念祭が行われ、その日一日、

村じゅうが柿の木一色となりました。特に子どもたちだけでなく、保護者の大人も一緒になってワークショップを盛り上げ、とても楽しくにぎやかな会となりました。その後も、柿の木カレンダーを作ったり、展覧会を開いたりと活動を活発に展開。2006年には、これらの活動が認められ、「ロンバルディア州平和特別賞」も受賞しました。

2010年5月2日、10周年祭は盛大に開催されました。大きくなった柿の木の下に、市長や多くの市民、マンゾーニ小学校の子どもたち、PTAの人たち、ミラノの日本領事館の方、ローマ日本文化会館の方、10年前に植樹に関わってくれた人々が一同に会しました。



2012年には、柿の木が折られるという事件がありました。しかし、柿の木は見事に蘇生し、その後も元気に成長を続けています。2020年3月には、植樹から20周年祭の計画があり、日本からも実行委員が参加予定でした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のためにイベントは延期になりました。

# サンタジュリア博物館

🇮🇹 イタリア

📍 ブレシア県・ブレシア市

🌱 2000年3月21日

1999年ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館で展示された「被爆柿の木2世」に出会ったブレシア市のアーティストのダリオ・ゾーニョさんは、ローマの日本文化会館に何度も、何度も問い合わせをし、柿の木の植樹を熱望していました。そして、ブレシア市、アートスタジオ、写真家のフラビオ・ボネッティ、作家グループグラフォ、建築家パオラ・ビサーノ、ベルナード・



ベッティ、市の教育青少年部に参加を提案、事務局をつくり植樹を実現しました。植樹地となったサンタジュリア博物館は、1000年以上もの間修道院施設としてつかわれており、町の中心に位置し、シドネオ丘陵の斜面に囲まれた歴史的経過をあらわしている場所です。

柿の木はこの中庭の真ん中に植樹され、今後ブレシアの人々に愛されることとなります。2007年4月25日にも大きな記念イベントが開催されています。

植樹式は、博物館の中庭で、大勢の人が集まり、



行われました。中学生たちによる詩の朗読、合唱の後、子どもたちの日本語の

「さくらさくら」の歌の中、植樹が行われました。さらに小学生による詩の朗読、参加者全員による「ウィ・アー・ザ・ワールド」の合唱が行われました。最後にこの植樹を切望したダリオ・ゾーニョさんの思いが参加者に伝えられました。

2010年ブレシア州に新たな植樹8か所とともにサンタジュリア博物館の10周年祭が実施されました。博物館の中庭には、市内7つの小・中学校から子どもたち、多くの関係者、また10年前の植樹に子どものときに参加してくれた10人ほどの若者も参加してくれました。



# スロベニア赤十字青少年健康リゾート

 スロベニア




 デベリ・ラティーチ

 2000年3月23日

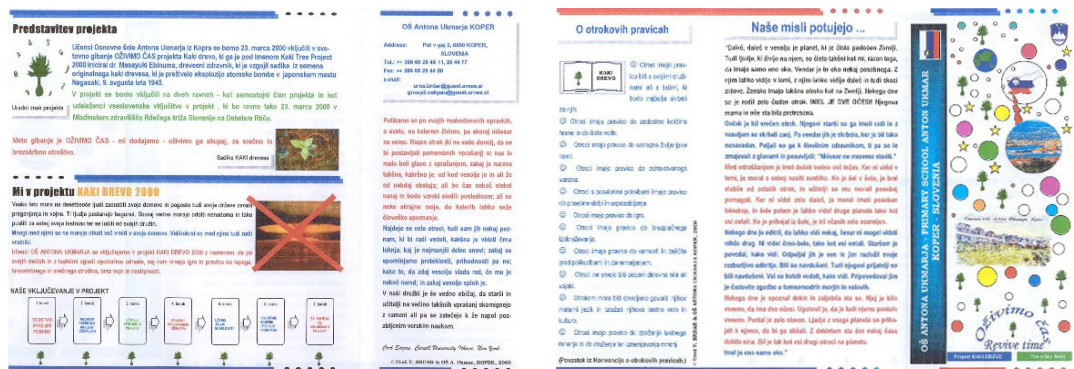
スロベニア赤十字青少年健康リゾートはアドリア海に面した丘の上にあります。ボスニア・コソボ避難民や子どものためのワークショップを青少年健康リゾートで主催するナダ・キルン・スポラーさんは、スロベニア赤十字と協力して植樹を行いました。彫刻家ヤコブ・ブルダールさんや画家トモ・ブランさんのほか音楽家も参加し、アントン・ウクマール小学校の生徒たちは「悪を追い払う案山子のインスタレーション」やパフォーマンス、ラジオ放送を行いました。海岸では子どもたちが色とりどりの小石を使って平和な街を描き、柿の木を描いた作品「生命への祈り」を日本の実行委員に贈ってくれました。



# アントン・ウクマール小学校

 スロベニア  
 コペル  
 2000年3月23日

セザム親子協会を主催するナダ・キルン・スポラーさんはスロベニア赤十字青少年健康リゾートの近くにあるアントン・ウクマール小学校にも柿の木の植樹を実施しました。ワークショップは合同で行われました。プロジェクトの説明の後、バイオリンの演奏があり、子どもたちの代表により、植樹が行われました。ギター伴奏により、子どもたちは歌いながら、手をつなぎ植樹された柿の木のまわりをぐるぐるとまわりました。そして石のオブジェなどが柿の木実行委員会に送られました。このオブジェは1枚岩からつくられた双子のひとつです。1つはスロベニアにおかれています。小さな小石に絵を描いたものがかごに用意され、参加者に配られました。アントン小学校の先生と生徒は柿の木プロジェクトを紹介するパンフレットを2種類制作し、植樹式に参加してくれた関係者の方々に配布してくれました。ナダさんはこの後、2005年にリュブリャナ市立博物館への植樹も実現します。



# サグラの庭（裁判所中庭）

🇮🇹 イタリア

📍 モデナ県・カルピ市

🌱 2000年3月25日

今回のプロジェクトはカルピロータリークラブの当時の会長であるティツィアーノ・カディオーリさんの申し込みにより、カルピロータリークラブとカルピ市の共催により実現しました。カルピは第2次世界大戦中に捕虜収容所が設置された、国内では数少ない市のひとつで、郊外には収容所跡が今も残り再生計画が進んでいます。市の中心の植樹場所の近くにはナチスやファシズムによる犠牲者の記憶を伝える博物館があります。



カルピ市民の平和への意識が非常に高く、植樹式にはトネリ音楽学校の生徒200人、カルピ市民200人の約400人もの方々が参加しました。植樹式にさきがけてファンティ小学校4つのクラスの子どもたちとアーティストによるワークショップが植樹式の約2週間前から行われました。ワークショップでは柿の木プロジェクトをテーマとした画集が制作され、式当日はパフォーマンスや日本の歌、踊りが披露されました。柿の木のまわりにはカラフルな木片がつみあげられ盛大な植樹式となりました。2010年5月8日には、10周年祭が開催されました。この時に子どもたちの作品を集めたカタログも制作されています。



またカルピロータリークラブは、イタリア・ゴリツィア州のモンテファルコーネロータリークラブに柿の木プロジェクトを紹介し、2009年3月27日には、イタリア・ゴリツィア州のダンテ・アリギエーリ小学校で植樹が実現しています。



# コートハウス・アート・センター

🇮🇪 アイルランド

📍 ティナヒリー

🌱 2000年3月25日

アイルランドはカトリックとプロテスタントの対立がとて深い地域です。しかし、植樹の式典には異なる2つ宗教の学校、3校が揃って参加しました。こんなことは初めてのことだそうです。植樹を実現するため尽力してくれたシャロン・コーランさんもこのことにとても感激されていました。ティナヒリー・コートハウス・アート・センターでは教育プログラムがとても充実していて、式典のため劇を行ってくれたグループも各地で活躍するほど本格的なグループになっています。劇の脚本はアーティストのマギー・ギャロガーさんが柿の木をテーマに書き下ろしたものです。被爆2世の柿の木の物語を、能の動きを組み入れた劇にして演じてくれました。劇の最後にはとても印象的な反原爆の歌が歌われました。植樹式にはティナヒリー近辺の3つの小学校の子どもたち50人と父兄50人が参加。3つの小学校の代表の子どもたち6名により、「子ども柿の木お世話委員会」が作られ、柿の木のお世話をしてくれています。学年が変わるたびに「子ども柿の木お世話委員会」は代々受け継がれています。



# レヴァンテ公園

🇮🇹 イタリア

📍 フォルリ＝チェゼーナ県・チェゼナティコ市

🌱 2000年3月26日



チェゼナティコはエミリア・ロマーニャ州のアドリア海沿いにある港街です。植樹を申し込んだ ADDA は、移民が少なくないこの街で異文化交流を促す活動を展開する外国人女性のグループでした。プロジェクトは協力者や植樹場所を探すことから始まり、小学校や市、各種団体を巻き込んで、地元アーティストや小学校の先生を含む現地事務局を立ち上げました。

渉外担当のミケーレ・ラムさんなど関係者の努力が実り、「平和の柿の木」と題した公園での植樹式には市長をはじめ多くの市民が参加しました。ウクライナ出身のオルガ・ナワコワさんの指導で、子どもたちはいろいろな国の言葉で詩を朗読するパフォーマンスを行い、色鮮やかなオレンジ色の風船を飛ばしました。植樹に続いて、柿の木の隣ではジョバンニ・ピントーレさんが制作した被爆柿の木2世彫刻の除幕式が行われました。テント会場には、イザベル・サマンズさんなどアーティストが子どもたちと制作した柿の木をテーマとした作品が展示され、また、さまざまなルーツを持つ住民によってアコーディオンとバンドネオン、韓国や日本の歌、セネガルの太鼓とダンスなど多彩な演目が披露され、とても国際色豊かなイベントとなりました。

# トレビアーノ・ロマーノ中学校

 イタリア

 ローマ県・トレビアーノ・ロマーノ市

 2000年3月28日

湖に面した、小さくも美しいトレビアーノ・ロマーノ市には、各国の外国人が多く在住しています。市民は自然と互いの文化に興味を持ち、市では数年前より「エジプトの日」「ヨーロッパの日」などを設け、国際交流・異文化理解の機会をつくってきました。

トレビアーノ・ロマーノ市の植樹は、市の文化担当として文化行政に力を注いでいるジュリアーノ・ネンチーニさんによって申し込みされ、岸田しほみさん一家が中心になって、植樹イベントを企画してくれました。

今回は「日本の日」として、市の小学生、中学生約200人と親たちなど100人計300人が参加して、柿の木を市の中心部にある中学校前庭に鉢植えの状態で植樹しました。当日の朝はひどい雨でしたが、式典開始時間にあわせるように雨があがり、小学校の児童たちも一緒に式典に参加しました。会場では全校生徒でつくった大きな柿の木の平面作品や彫刻も披露されました。平面作品には、中学生一人、ひとつずつ作ったという色とりどりの柿の実が賑やかに実り、また、やはり学生がデザインしたという彫刻は、6つの鳩が学校の6つのクラス、つまり学生全員の平和への願いを

表していました。彫刻は中学校前庭に設置され、学生たちは、長崎平和記念公園の平和彫刻プロジェクトに参加する気持ちでこの彫刻プロジェクトを実施しました。このため、会場には、長崎平和記念公園の各国から寄贈された彫刻の写真も併せて展示されていました。会場で、学生が作った日本についての冊子が配布されたほか、映画館でも学生の柿の木プロジェクトへ寄せる作品が展示されており、こうした、美術教師マリア・グラツィア・カルカーニ先生をはじめとする学校をあげての事前のワークショップや取り組みが素晴らしかったです。

植樹式では、今回の植樹を応援してくれた日本大使館からも、暖かいメッセージが読み上げられ、子どもたちにえんぴつなども贈呈されました。植樹は、サラ・キシダさんたちの美しいバイオリン演奏の中、かわいらしい花の冠をつけた女の子に導かれて行われました。

2002年には実をひとつつけた柿の木ですが、2004年には2本とも枯れてしまいました。誰かが別の柿の木（被爆二世ではない）を植えてくれて、人々にとってはこれが「長崎の柿」との思いで、みんなで大切にしているそうです。





# フランクリン公園温室植物園

🇺🇸 アメリカ

📍 コロンバス

🌱 2000年3月28日



コロンバスアーツカウンシルの方がヴェネツィア・ビエンナーレの展示を見たことをきっかけに、植樹が実現しました。コロンバスアーツカウンシルでは十分な教育を受けることができない子どもたちを対象に、地元アーティストが担当するプログラム「Children of the Future」を実施していて、今回はこの方達が子どもたちを引率して参加してくれました。アメリカでの最初の植樹地となったコロンバス。ここには日本人の居住者が多く、その方達による活花の展示、すしのデモンストレーションと会食、おりがみ実演が開催されました。そして、アメリカ人による和太鼓の勇壮な演奏が行われました。

植樹後もプロジェクトに触発するワークショップなどを継続的にやっていきたいと話しており、2001年3月28日にはフランクリン植物園でバースデーパーティーが開催されました。また2008年には大きな柿の葉と実の美しい写真が届きました。



# G. マッツィーニ小学校

 イタリア

 テルニ県・テルニ市

 2000年3月31日



テルニはイタリア中部、ウンブリア州の緑豊かな自然に囲まれたテルニ県の中心都市です。プロジェクトを進めた「Gli altri siamo Noi」はテルニ県内を中心に平和、寛容、人権など、子どものための教育活動を行う団体で、当時、1998年に設立されたばかりの若者を中心とするグループでした。メンバーの一人がヴェネツィア・ビエンナーレでの展示を見たことをきっかけにプロジェクトへの参加を申し込み、バレリア・デラ・クローチェさんを中心に市や県などに働きかけ、小学校での実施が決まりました。植樹式までの期間、小学校ではアーティストとの協働で柿の木、平和、戦争をテーマに数多くの絵や彫刻が制作されました。

植樹式当日はそれらの作品が校内や庭に展示され、子どもたちは平和のメッセージを詩や音楽、

合唱に託して披露しました。また、地元の演劇団ピノ・カンパニーによる物語の朗読、G. ブリッチャルディ音楽学校に学ぶ日本人学生オクダさん、ゴトウさん、マリさん、ノリコ・ユモトさんによる歌とピアノ演奏も行われました。翌4月1日には街の広場を起点として、植樹を祝い平和を願うパレードがスタートしました。「アルティオシーン」のストリート・パフォーマンスや”ラ・ラッチア“民族楽団の演奏、そしてバレリア・デラ・クローチェさんたちの「Gli altri siamo N oi」による平和アピールが繰り広げられ、多くの市民が自由にパレードに参加することができました。



植樹から約2か月後の5月24日にはイベント「KAKI Festival」が行われ、ふたたび、柿の木と平和をテーマにした作品が数多く制作されました。



# 青少年センター

🇮🇹 イタリア

📍 シェーナ県・ポッジボーンシ市

🌱 2000年4月1日



樹式に参加しているということ、「被爆柿の木2世」に対する愛情、食べるという行為を通して、自分達の成長と苗木の成長を結び付ける働きかけが意図されています。参加した子ども

イタリア・ポッジボーンシ市の職員ドナテッラ・バグノリさんは、ヴェネツィア・ビエンナーレ展示の際、3度も日本館に来館され、青少年センターでの植樹を実現されました。

ポッジボーンシ市は、長崎と同じように第二次世界大戦の際、空爆による被害があり、二つの平和への思いを結び付けるようにとの思いのワークショップが行われました。ワークショップは数回行われ、色とりどりの柿の葉にメッセージを書いて、部屋中につるした作品を制作。長崎の原爆、ポッジボーンシの空爆、柿の木プロジェクト、ポッジボーンシで植樹をするようになった過程、4月1日の植樹式、それらを一冊の本にまとめた冊子も作られました。

植樹式は盛大に行われ、市内の小学生とその父兄、市民の方々の総勢300人が参加しました。小学校、各クラス別に植樹場所に行き、子どもたちが、一人ずつ苗木にスプーンでひとさじ土をかけていくというとても独創的なアイデアで植樹が行われました。これは、ドナテッラさんのアイデアで、苗木に土を食べてもらうという意味がこめられています。子どもたち各自が植

たちはワークショップでつくられた自分の名前入りの布を頭や腕、腰に縛った格好で植樹に参加しました。「木」、「柿」、「柿の木プロジェクト2000」、「友」、「子」など日本語で記された紙がなびいた会場のなかで、植樹が終了。苗木は、子どもたちから土の栄養とたっぷりの愛情をそそがれて植樹されました。

子どもたちと被爆柿の木の苗木が、自然な形で、子どもたちに繋ぎあわされた形でおこなわれた植樹。柿の木の成長をとおして、常に現在の思い出をはぐくむことを願った植樹式にしたいという主催者の思いがまさにかたちになった植樹式となりました。



# サントナートミラネーゼ市役所

🇮🇹 イタリア



ミラノ県・サントナートミラネーゼ市



2000年4月1日

今回、植樹申し込みをし、中心者となってくれたのが、市の平和委員会で働く若い職員、ジュディッタ・ジェラーティさんです。彼女は平和教育を目的とする交流事業などを市で推進し、今回の植樹も市の公式行事として実施してくれました。また、植樹地に選ばれなかったミラノの他の申し込み者を現地事務局に招いていただきました。

植樹式には、式典のシンボルとして、広場中央に事前に制作した大きな柿の木オブジェが展示されました。地元芸術家協会のメンバーが準備を進めるうちに、子どもたちが次々と集まってきました。参加者は緑リボンのついた柿色のロープをプレゼントされ、それをおもいおもいに身につけました。これはブラーノでのワークショップに参加したジュディッタさんがこのアイデアに感動し、実現したものです。会場の一角では、地元芸術家協会会員がプロジェクトをテーマに“メモリー”展を開催。さらにロビー会場でも事前のワークショップで制作された、小学生から高校生までの作品が展示されていました。

植樹に先駆けて、子どもたちは水彩で思い思いの柿の木や平和のイメージを描き、それを葉の形にカット。一方、ロビーでは、先生に教わりながらおりがみで動物や花作り。地元アーティストたちはこれらすべてを、幹と枝だけが描かれた紙の柿の木に貼りつけていくというMURALES（壁画）ワークショップが行われました。参加者が増えるたびに、4本の柿の木は1枚、

また1枚と葉をつけ、折り紙の鳥や動物が集い、実をつけて大きく成長していききました。



式典開始時には多くの市民がかけつけ、市長も出席。



植樹は、M.L. キング小学校の子どもたちが平和の歌を歌う中、行われました。子どもたちの中、マイクを持って歩き回るアンドレア・チェッキさんは、ブラーノの式典にも参加し、このプロジェクトへ深い共感を寄せる一人でした。植樹後は、「エスプレッソオーネ・コーポレア」という学生グループたちが、パーカッションのリズムにのせてパフォーマンスをスタート。被爆柿の木植樹というテーマのほかに「プロジェクトへの参加」を強く訴える内容で、ラストでは学生が子どもを中央に連れ出し、輪になって踊りだしました。またアフリカ系のダンサーも登場して激しく踊りながら次々と観客を導き、みんなを巻き込んでいきました。最後にホールで上映されたドキュメンタリービデオは、先生方が制作された、パフォーマンスの練習風景、参加者インタビューでした。つぎつぎと参加者を巻き込み、今日の植樹を実現していった様子が伝わるすばらしい植樹式となりました。

# G. ウンガレッティ国立中学校

🇮🇹 イタリア

📍 ポルデノーネ県・ポルデネノーネ市

🌱 2000年4月1日

1999年のヴェネツィア・ビエンナーレ展を見たG・ウンガレッティ国立中学校のルジーナ・モーロ先生からの申し込みがあり、植樹が実現しました。事前に学校の授業で柿の木をテーマにこども達が詩集や絵を制作し、詩集は冊子となり、植樹式の参加者に配布されました。中学校の先生はイタリアの他の地域の植樹式にも積極的に参加し、今後、柿の木プロジェクトに参加した

生徒同士の交流につながればと考えています。

植樹式当日は体育館で子どもたちによるパフォーマンスが行われ、学校の敷地内に柿の木が植樹されました。学校の児童を含む約80人が参加した植樹式では、参加者は「人と柿の木、平和」をイメージしたカードを首からさげて植樹をお祝いしました。



# ラーマ・モナキーレ橋遊歩道

 イタリア

 バーリ県・ポリニャーノマーレ市

 2000年4月2日

植樹申し込は、A.I.D.O イタリア臓器提供協会とアートプロジェクト団体リサイクルアルテによって行われました。植樹に先立ち、3月31日に市の会議場にて「時の蘇生—原爆とホロコースト：その反省は我々の思想、世論に今もあるか？」と題したセミナーが開催されました。会場は若い学生のほか、街の人もつめかけ、原爆とホロコースト、そして南イタリアの失業、貧困、暴力などのさまざまな問題とその解決について、活発な研究発表がなされました。

植樹式は、軍のブラスバンド40名の演奏パレードで華々しく開幕しました。パレードが中心街を一巡するとたくさんの人々が家からでてきました。式典はまず、司教からのスピーチの後、この街で亡くなった祖先と、すべての死者に対して祈りが捧げられました。来賓挨拶、スピーチ、アーティストや子どもたちの作品紹介、インタビュー、司会者による詩の朗読が行われました。そして、参加者は遊歩道を歩いて学生手作りの鮮やかな柿色の旗がみえる植樹場所へ移動しました。子どもたちの代表2人が地元農家の方と協力して植樹を完了しました。この植樹場所は、イタリアでラマと呼ばれる美しい海の入り江に面した谷状の低地です。古いローマ橋が今も残り、かつては丘から海へ水が流れていたとのこと。会場では歩道に沿って子どもたちやアーティストの作品がいくつも飾られ、橋との間にはG i oたちによる長さ4mの帯状カリグラフィー作品が何本も風に揺られていました。「アートは私の中にあるから」という言葉を何度もきき、みんなで作り上げた、イタリア最南の地での植樹は大成功となりました。



# 仲外公園 (光州ビエンナーレ会場)

 韓国  
 光州広域市  
 2000年4月4日



アジアで最初の植樹となった光州。アジアの反日感情などの心配もありましたが、重要な人々の公式な行事となっていて、式典は何事もなく無事に終わることができました。

今回の植樹は第3回光州ビエンナーレの展示企画委員でもある河正雄さん（在日韓国人2世）が水戸芸術館での展覧会を見てぜひ韓国の光州に柿の木をと希望されました。河さんに話を聞いた光州市立美術館の金善姫さんもヴェネツィアでこのプロジェクトを見ており、良き理解者になってもらいました。植樹の2週間前になり、ビエンナーレ事務局次長の金相潤さんと河さんによる打ち合わせ、急転、このプロジェクトを光州ビエンナーレが仕切ることになりました。市長をはじめ、光州にある主だった人権関係の団体から主催の許可を取りつけ、植樹式が実施されました。残念ながら子どもたちは参加できませんでしたが、アジアに長崎の「被爆柿の木2世」が植えられ、大変意味深い植樹となりました。



式典には光州広域市市長、光州市立美術館館長、5・18 記念財団代表理事、市民団体協議会代表、市内在住の方80名の方々が参加され、報道陣が多数駆けつけていました。今後、美術館を中心に子どもたちへのワークショップを行っていくことを約束してくれました。（河さんは在日のアーティストの作品を集めるコレクター。35年にわたって集めつづけた作品2603点を光州市立美術館へ寄贈しています。今回の光州ビエンナーレでもこのコレクションをもとに「在日の人権展」が開かれていました。）

その後、国民感情から柿の木が引き抜かれた事件もありましたが、2001年再植樹。またその木も切られ、さらに2003年に再々植樹をしました。苗木は鉄条網を何重にもまいた柵で囲われました。「過去の歴史の事実を見た上で、互いに学び新しい関係を築くべきであり、柿の木1本育てられないで、子どもたちに命の大切さや平和が教えられるか」という河さんの熱い思いは通じ、柿の木は元気に育っています。

2015年には、光州市立美術館で、フォーラム「時の蘇生・柿の木プロジェクト、光州での歴史と意味」が開催され、海老沼正幸氏による報告、宮島達男による基調講演がありました。さらにパネリストとして、東京アーツカウンシルの森司氏により、「平和の柿の木の芸術としての位置」の話があり、韓国においての柿の木の意味を考える大きなきっかけとなりました。

# ナポレオン市立公園

 イタリア

 ヴェネツィア県・カステッロ市

 2000年4月7日

カルピの若者のためにと スウォールさんが柿の木プロジェクト参加を申し込まれ、ナポレオン市立公園に植樹が実現しました。

植樹式は P.F カルピ中学校の 1 年 G 組と D 組の子どもたちの手により、フラビオ・フランチェスケット先生の指導のもとに企画、実施されました。植樹式はカステロ協会の協力のもと行われ、カルピの学生の手によってナポレオン市立公園内に植えられました。カルピ中学と近郊にあるディアス小学校、ゴッツィ小学校から 6 クラスの子どもたちも参加し、エレナ保育園の園児、ザネッティ協会会長、カルピ市民の方々が参加され、盛大な植樹式となりました。網の柵とプレートが設置され、カルピの若者たちにより今後、柿の木は守られていきます。





# ライデン大学付属植物園

 オランダ

 ライデン

 2000年6月6日



ライデンはオランダ南西部の都市で、シーボルトゆかりの土地で知られています。シーボルトが生前、日本から持ち帰った民族誌学的コレクションを一般公開した家に、日本博物館が建設されており、江戸時代から現代アートまで、幅広く日本の文化が紹介されています。

オランダで開催された日蘭交流400周年記念の現代アート展「日本からの声」展に柿の木プロジェクトが招待され、ライデン大学付属植物園の館内で柿の木プロジェクトの紹介展示が行われました。この展示はニコル・レパースさんと植物園のカーラ・テーネさんが中心となって準備が進められ、シモーネ・デ・ヨンさんをはじめとする地域のアーティストたちが、柿の木プロジェクト事務局から送った資料を元に展示作品を制作してくれました。展覧会前には、オラ

ランダの4人のアーティストにより、近くの小学校で2回のワークショップが行われ、ワークショップで制作された子どもたちの作品も展示されました。展覧会のオープニングでは近隣の小学生、中学生が太鼓をたたいて行進し、展覧会の会場には中央に苗木が展示され、そのまわりを葉っぱの形をしたメッセージカードがぶら下げられました。また、柿を使った料理のレシピなども紹介されました。

この時に展示された苗木が、10月16日にライデン大学付属植物園に植樹されました。植樹は、この時期は移植に適さないので、大きな植木鉢に仮植え、翌年の5月には無事に地植えされています。この地植え式にも大勢の人が集まり、アーティストによる詩の朗読や演奏が行われました。

# ホッカディ・スクール

🇺🇸 アメリカ

📍 ダラス

🌱 2000年10月25日

ホッカディ・スクールは、世界各国からの生徒が集まる私立の女学校です。アーティストでもあり、小学校の美術教師ディー・メイズさんは1999年のヴェネツィア・ビエンナーレで「被爆柿の木2世」に出会い、学校側に植樹を提案しました。原爆に関わるプロジェクトへの参加に反対する声もありましたが、日常の中で「被爆柿の木2世」を育てることで子どもたちが平和の大切さを感じ、異文化を理解することにも繋がると訴え、理解を得ることができました。

植樹式は学校のロビーで行われました。ディーさんは事前に何回も柿の木のワークショップを展開し、準備をしてくれました。植樹式当日は、1年生から4年生までが柿の木のまわりに集まり、英語と日本語で平和の歌を歌いました。海老沼先生、実行委員のスピーチに続き、柿の実おりがみのワークショップを行いました。生徒たちは事前にたくさんの折鶴を折ってくれていて、日本の子どもたちへ折鶴をプレゼントしてくれました。また残りの折鶴は広島の実験記念碑へ届けられました。

後日、ディーさんが送ってくれた手紙に生徒の一人がプロジェクトに参加して感じたことが載っていました。「平和を作ることはあなたの心の深いところで始まります。あなたが心を他の人へ開けば、こういう形で平和はみんなに広がるのです」と。大変に印象に残りました。その後ディーさんが2001年の全米の教育雑誌『Teaching Tolerance Magazine (寛容の教育雑誌)』19号に載せた柿の木プロジェクト参加の体験記事が反響を呼び、その記事を読んだアメリカの教育関係者から多くの植樹申し込みが寄せられることになりました。

